

介護支援専門員実態調査結果のポイント

1 介護支援専門員の勤務状況

- ・常勤換算人数は、1人とする事業所が最も多い（38.3%）。
- ・年齢は50歳代が最も多く、全体の60%以上が50歳以上である。

2 介護支援専門員の不足状況

- ・事業所（施設）種別では、地域包括支援センターが最も不足感が大きい。
「大いに不足」：介護支援専門員 20.3% 主任介護支援専門員 16.2%

3 介護支援専門員の確保・離職防止に関する課題

- ・現在の課題としては、「新たに介護支援専門員を募集してもなかなか採用につながらない」（52.1%）、将来的な課題も含めると「高齢化が進んでいる」（86.5%）が最多。
- ・資格を取得していても、介護支援専門員として働かない理由は、「資格の更新が負担」、「精神的な負担が大きい」、「賃金が低い」。

4 介護支援専門員の定着のために実施している取組

- ・「法定研修の受講負担軽減のための取組」は既に多くの事業所が実施（76.9%）、今後実施予定では、「新人教育プログラムの作成・実施」が多い（15.2%）。
- ・実施したいが困難な取組では、「賃金・労働時間の適正化」（27.6%）、「資格手当や処遇改善手当等の実施」（23.6%）等処遇改善に関する回答が多い。

5 介護支援専門員の募集方法とその効果

- ・最も効果があるとされたのは「知人等への個人的声かけ」（13.7%）。

6 介護支援専門員を増やすための施策

- ・「報酬の改善」(76.8%)と「受験資格、更新要件の緩和」(71.0%)は、ほとんどの事業所が効果が期待できると回答。次いで、新人教育に関する支援に期待が高くなっている。